

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	・ 中学年という発達段階を考慮し、少しずつ口語と文語を使い分けられるようにしていきたい。 ・ 語彙に個人差が見られる。語彙を意図的に増やしていく必要がある。	・ ノートの型を示し、見やすく振り返りやすいノートを作るための指導を徹底する。 ・ 児童に獲得させたい言葉を教師が説明したり、意図的に使ったりしていく。また、気になった言葉と出会った際にすぐ国語辞典を引くことを習慣化させる。
社会	・ 地域や小平市への関心が高まっている。 ・ 資料を読み取る力を伸ばす必要がある。	・ 学習内容を身近な生活につなげながら、さらに意欲的に取り組めるように指導する。 ・ 様々な種類の資料を読み取ったり、資料から考えたことを交流したりする活動を多く設定する。 ・ ICT 機器を活用し、資料のどこに注目したのか分かるようにする。
算数	・ 5展開の習熟度別指導を行っている。 ・ 計算や単位換算など習熟に個人差があり、既習事項の定着に課題がある児童が少なくない。 ・ 自分の考えをノートに表現したり、分かりやすく説明したりできる児童が増えてきたが、苦手とする児童も多い。	・ 単元ごとのレディネステストをもとに習熟度別に5展開で行い、個人差に対応しながら学習を進めていく。 ・ 計算プリントなどを適宜活用し、計算力を高める。 ・ 自分の考えを書いたり、友達の発表を聞いたり、説明したりする活動を取り入れた授業展開を日頃から努める。 ・ 条件不足の課題提示を適宜行い、意欲や思考力を高める。
理科	・ 観察から分かったことや気付いたことを観察カードの文章で表現することが難しい児童が多い。 ・ 3年生の理科で重要とされている「問題をつかむ」ことが難しい児童がいる。そのため、その後の予想にもつなげにくくなっている児童が見られる。 ・ タブレット機器での授業の記録をまとめる操作が苦手な児童が見受けられる。	・ 「色・形・大きさ」などの注目すべき点を書くことを指導する。また、観察カードの記入例を示して書き方の指導を行う。 ・ 授業の導入を分かりやすくする指導を行う。教科書の写真を見せた後に児童の体験や経験を想起させるような発問を行い、興味と関心をもたせる指導を行う。 ・ その時間での目標を明確にし、同じ画面をTVに写しながら一つ一つの操作を確認しながら指導を行う。

体育	・運動することが好きな児童は多く、意欲的に学習に取り組んでいる。また、友達と協力したり、教え合ったりとグループ学習も始まっている。 ・技能面で差が開いてきており、体育が苦手と感じる児童も一定数いる。 ・自分のめあてをもち、それを達成するために工夫して課題に取り組むことは、まだ難しいように感じる。	・体育の学習の中で「運動学習場面」を多く設け、児童の運動量を十分に確保する。 ・苦手な児童も楽しく取り組めるよう、規則などを工夫する。また、運動技能だけでなく、教え合いや作戦など思考面でも児童を認めていく。 ・授業の流れとめあてを明確にし、児童に意識させることで課題解決学習に取り組みやすい環境をつくる。
道徳	・登場人物の気持ちやこれからの生き方につながる自分の考えをワークシートに書いたり発言したりすることができる児童が多い。 ・道徳の授業で考えたことを生活の中で実践できていないことがある。	・こどもたちが自分のこととして考えられる言葉掛けや、自己を振り返えられる言葉掛けをしていく。 ・必要に応じて学習者用端末を活用し、考えの共有を図る。 ・常に道徳の授業と日常生活を結び付けて考えていくことを大切に指導していく。
外国語活動	・外国語に興味があり、多くの児童が抵抗なく英語を話したりジェスチャーをしたりすることができるが、発声練習をする時は、自信がもてず、声が小さくなる児童もいる。 ・楽しく活動できている。今後はめあてをより意識させて活動させていきたい。	・ゲームや活動を通して上手に発音できたり、大きなジェスチャーで表現できたりした児童を褒めながら、今後もこどもたちの意欲を維持できるようにしていく。 ・「めあて」の項目を明確にし、そのめあてに向かって活動したり振り返りをしたりできるようにしていく。